

中学校向け講義用テキストの使用にあたって

私たち税理士が学校において行う租税教育には、「生きる力」を育むことを理念とする「学習指導要領」を考慮した授業が求められます。

そこで、このテキストでは、財源の確保と配分という視点からの租税教育に留まることなく、「税」を題材に「公平」について深く考えてもらい、学習指導要領社会科公民的分野の学習目標（『個人の尊厳と人権の尊重の意義、特に自由・権利と責任・義務の関係を広い視野から正しく認識させ、民主主義に関する理解を深めるとともに、国民主権を担う公民として必要な基礎的教養を培う。』など）全般を意識した租税教育を行えるように編集しました。

「小学生向け講義用シナリオ」と「中学生向け講義用シナリオ」それぞれに、教室でクラス単位の人数（15～50名程度、班別にしてゲームを行える人数）を対象とする**参加・体験型シナリオ**と、大教室（体育館など）で多人数を対象とする**講義型（パワーポイント使用）シナリオ**を一例として掲載いたします。

「小学生向け参加・体験型シナリオ」は実際の授業をイメージできるようにセリフを多く記載しています。一方、「中学生向け参加・体験型シナリオ」は講師が自分の言葉で話すことをイメージできるようにセリフは極力少なくし、授業をする際に伝えていただきたいことを記載しています。

小学校においても、中学校においても、「公民的資質の基礎を養う」という学習の目標に変わりはありません。したがって対象が小学生であっても中学生であっても基本シナリオは共通です。どちらのシナリオも、租税教育の現場で小学生用としても中学生用としても使われているものを参考にして、日税連租税教育講義用として編集しました。

実際の租税教育では台本を読み上げるだけの授業は求められていません。求められるのは講師が自分の言葉で行う熱意ある授業です。これらのシナリオ例を是非参考にしてください。独自のシナリオを完成させてください。